来よ来使や梅にお〻らゑく　蓮守
うら風や霞そめたる松もやし　竹丈
走り鳥二見の浦をふくらみ　篠むめ
鶯やまた若水の神さ　西山
手折りかく柳や末戸の門ゆかし　遼水
梅花の重なり雪のちる餘寒かな　根城
若水や東度ひらけ兼まし利根　琴松
そのまゝ柳にりし来るく数寄鶴　菊翁
世志めく鶯ふりなり福寿草　春山
気恵ひらく白ひや志ところ　一旭
月影の霞の夜にはおもしろめ柳之　儀
先の名に乙女のなるの柳　机芸
きよき日はよるにと来き柳　隊浅
鶯や人まもうつす鏡きらん　弄月
草のくせりて来こゝぬ梅に　柳翁
見れてゐる室も若やかくりのお　窓月
うら若衣祈るの露の一重山　富甫
月とりれ此の花人まもめや今朝のある　琴郎
子の後て流れ子きちの柳に　梨去
とる年も福ある事や床の福寿草　雪蓑
春知や志ゆらく志の孫自慢　、
乙和去